

SSKW

海から海へ

No.23 2010.2.25【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

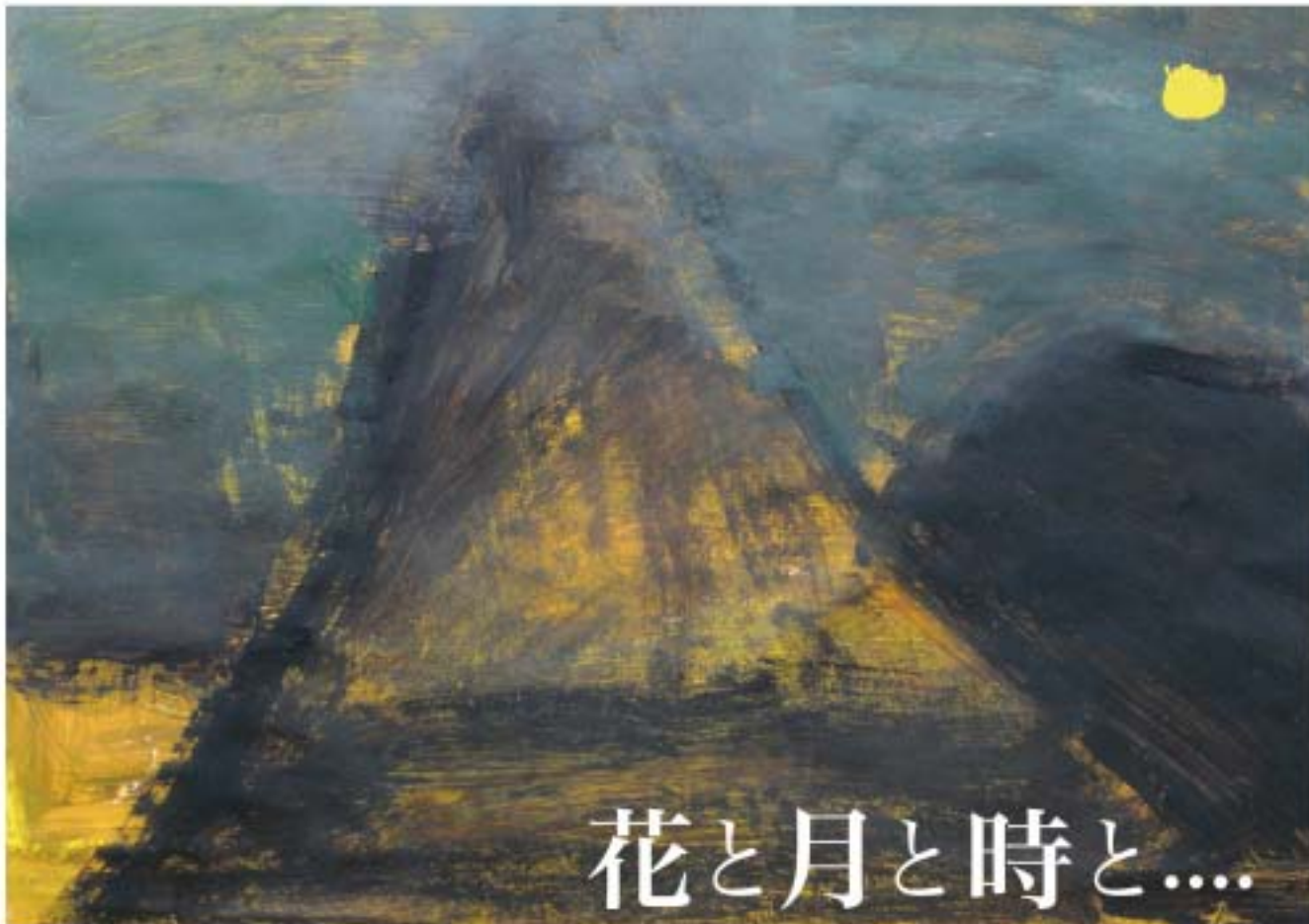
Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp



やぎたちの午後 Goats in an Afternoon 910x1167 1995 © Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きることに貢献することを目的として活動しています。



東 美名子「黄色い月」

花と月と時と.... Spring of Tokyo

ここは大都会、東京。
目まぐるしく変わりゆくこの地で、マイペースに、
ユニークな構成と描き方で、
確固とした自分を豊かに表現している人たちがいる。

●出展作家

東 美名子 | 蔵本 裕士 | 結城 周平 (アトリエ・ボレボレ)
尾崎 文彦 (クラフト工房 La Mano)
田中 瑞木 (海から海へ)

2010年3月6日(土) — 5月23日(日)

閉館10-17時(入館は16:30まで)、月曜日・火曜日休館(祝日・予約団体には開館)

もうひとつの美術館

栃木県那須郡那珂川町小口1181-2 | tel&fax 0287-92-8088 | <http://www.mohmuseum.org/>

■主 催 - NPO法人もうひとつの美術館

■入館料 - 大人:600円 大学生:500円 小中高生・70歳以上 障害者・重度の方の付添い:300円
団体20名以上:10%割引(要予約)

■協 力 - エイブル・アート・ジャパン (「アトリエ・ボレボレ」, 「クラフト工房 La Mano」, NPO法人「海から海へ」)



田中 瑞木「地球の春」

花と月と時と... Spring of Tokyo

2010年3月6日(土) - 5月23日(日)

開館10 - 17時(入館は16:30まで)、月曜日・火曜日休館(祝日・予約日除くは別記)

東 美名子(ひがしみなこ) 1985年生まれ

1996年よりアトリエ・ボレボレに参加して、絵画製作を開始する。大胆な構図と詩情に満ちた独特の作風の中に深い情感も込められて、作品は吸い込まれるように美しい。

蔵本 裕士(くらもとひろし) 1974年生まれ

1998年よりアトリエ・ボレボレに所属する。幼い頃から絵を描くのが好きだった彼は、週末のアトリエにほとんど休みなく参加し、黙々と描いている。ウイットのある作品は、どこかゆったりとした時を感じさせる。

結城 周平(ゆうきしゅうへい) 1982年生まれ

ことばを語りはじめる前から、英字を紙に書いたそうだ。彼独特の感性で、「人」と日常の生活と密着した「物」との関係を探え、表現しているのだが、肩透かしを食らったように力の抜けた摩訶不思議な作品だ。

●アトリエ・ボレボレ：障害のあるなしに関わらず、自由で豊かな表現の場を共有するために、1996年から民間非営利組織エイブル・アート・ジャパンが運営し、開館している絵画のアトリエ。月に2回土曜に東京近郊から作家たちが集まる。コーディネーターはアートカウンセラーのサイモン順子 <http://www.ablart.org/>

尾崎 文彦(おざきふみひこ) 1978年生まれ

幼少期より文字を書く事が好きで、それは絵画制作にも活かされている。

描くという行為を通して何かを確かめるように力強くゆっくりと描いていく線は、絶妙のバランスで存在感のある形を作り出す。

●クラフト工房 La Mano：郊外の静多い町田市にある、心身障がい者達所授産施設。一般就労が困難な人たちが、生き生きと働ける場として1992年に設立される。設立当初より「染め」「織り」「刺しゅう」「絞り」などの手を使った物づくりをしている。名称である「La Mano」とは、スペイン語で「手」の意味。 <http://www.la-mano.jp/>

田中 瑞木(たなかみづき) 1973年生まれ

1985年から1991年まで、絵画教室にて油絵を学ぶ。現在は平日は高齢者福祉施設で働き、週末に制作している。明るい色彩と天性の構成力と豊かな表現力を持ち合わせた作品からは、愛がそこはかとなく漂う。

●海から海へ：調布駅近くで、田中瑞木美術館を開館しているNPO法人。障がいをもつ人から愛される豊穡なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした文化芸術活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行い、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きること貢献することを目的としている。 <http://www.umi.or.jp/>

イベント events

●3月21日(日) 妻木律子ダンスワークショップ 13:30-15:30

講師：妻木律子 <http://www.masaki-citaku.org/>

入館料+1,000円(受講料)

●5月2日(日) 絵画ワークショップ 13:30-15:30

講師：サイモン順子(アトリエ・ボレボレファシリテーター)

入館料+1,000円(受講料)

*講師の都合で日にちが変更になることがあります。

*いただいた個人情報は、本事業に関するご連絡以外には使用いたしません。

●次回展示のお知らせ：6月5日-8月29日 サマーフォーラム2010「アート&クラフト&グッズ」(仮題)

「もうひとつの美術館」は、栃木県那須郡河川町の里山に建つ明治大正の面影を残す旧小口小学校の校舎を再利用して2001年に開設された小さな美術館です。ハンディキャップを持つ人の芸術表現活動をサポートしていくことから、「みんながアーティスト、すべてはアート」をコンセプトに、年齢・国籍・障害の有無・専門家であるなしを超えて協働していくことで、まち・地域・場所や領域をつなごっていく芸術文化活動を行っています。春・夏・秋の年3回の企画展を中心に、様々なイベント・ワークショップを開催しています。



●交通
JR東北本線氏家駅から東野バス高橋行き「高田」下車徒歩25分
または、「小川車庫前」下車タクシーで7分
東北自動車道「宇都宮」ICより60分 常磐自動車道「那珂」ICより60分

もうひとつの美術館

MOB museum of Alternative Art, Nakagawa
〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2 | mob@nactv.ne.jp

出会いから生れた2つのイベント

田中瑞木美術館学芸員 阿部愛子

3月6日から5月23日まで栃木県那須郡那珂川町のもうひとつの美術館では、「花・月・時と…Spring of Tokyo」展が開かれる。企画をされたのは梶原紀子さん。

12月の寒い日、田中瑞木美術館へ今回の展示にぜひ協力をと、次男の環さんと一緒に話に来られた。梶原紀子さんは、私どもと同様しょうがいを持つ子どもの親の立場で、「もうひとつの美術館」という美術館を立ちあげられ10年、芸術を土台にした活動を続けている。

実は、この美術館のことは知っていた。田中瑞木が小学校6年間同じクラスでいつも面倒を見てくれた友達の丸山優子さんのお母様から5年ほど前に紹介されていた。

明子さんの知人が、明子さんから瑞木の絵の活動を聞き、こういう美術館もあるわよと、もうひとつの美術館のパンフレットなどを渡されたそうである。それをいただいたときから、私どももいつか訪ねたいという気持ちはずっともっていた。それが通じたのかどうか、不思議なことだが、突然電話が来て、梶原さんに出会った。

梶原さんに会う前、一家が東京から栃木に移り住み、その地で元小学校を借り受け、美術館を開館し運営することの面白さと大変さを、私は想像していた。

しかし、梶原さんと話していると共感し納得するものがある。信念と努力を要する事業を起こすことにつながる環さんの存在が、梶原さんのエネルギーの素ではないかと…。梶原さんが大変ですと言いながら、目は笑っているのが印象的だった。

今回、田中瑞木の作品は花の絵を中心に10点ほど展示される。梶原さんとその周りの世界がどのようなハーモニーを醸し出すのか、オープンが楽しみである。

翌日、7日(日)午後1時30分からは、ティータイム付き講演会「子育ては食育から」が調布市で開催される。これは毎年開催してきた当法人海から海への事業で、地域活動の一つである。今年はシリーズの最終章となる。

講師の室田先生とは、娘が2歳を過ぎた頃からのお付き合い、かれこれ30年以上になる。先生は私たちが杉並区在住のころ、区立済美教育研究所で臨床心理士として仕事をしておられた。そこで週1回通う私たちに療育指導や子育て相談をされていた。

私たちがその後歩いてきた過程には、先生からの多くのアドバイスが活かされている。だからこそ、子育ての渦中に適切な相談者にめぐり合うことの重要性に気づき、私自身も経験を通じ、50代になってからではあるが、

臨床心理士の道歩く動機の一つになったように思う。

だれもが親になって悩み、戸惑い、模索して子育てを続ける。そのことを話したり、質問したりすることは自然なことだと知ることが、大切だ。子育ては試行錯誤のことも多々あり、創造的な仕事。どの親にとってもこの世に一組のオリジナルな関係だ。親が失敗をするのは当然で、そのことを通して親も子どもも人間性を学び身につけていくことでもある。

恐れずたゆまず愛情を育みながら、一步一步前に進んでいく。笑い、泣き、喜び、悲しみといった感情を沢山味わいながら、親子とも自分の生を肯定的に生きていくことに自然でいられるように——そうなることを願いつつ、室田先生の講演会を企画した。

この機会に、多くの親御さんにぜひおいでいただき、先生のお話からアドバイスを受けとっていただけたらと思う。

編集後記

近代科学は、世界を要素の集合とそれらの相互作用から成り立つシステムとみなすが、これとは別の見方がある。外界から流れ込み外界へ流れ出る「流れ」の中の動的平衡状態として世界を捉えるものだ。

住む場所を失って路上で暮らしていても人に助けを求めることのできない若者がいる。「自己責任」ということばがあった。これは自分と他人とを切り離し、自己完結する考え方だ。人に迷惑をかけないことが良しとされ、しょうがいのある子どものいる家族を不幸とみなす社会。人はこのような狭く貧しい関係の中で生きることができない。

私たちは他のいのちをいただき、大きな流れの中で生きている。アートは生きていることの喜び、その賛歌だ。食とアートのイベント、どうぞご期待ください。(輝)

特定非営利活動法人 海から海へ
http://umi.or.jp office@umi.or.jp
2010年2月25日 海から海へ No.23
編集責任者 阿部公輝
〒182-0024 東京都調布市布田1-32-5
マートルコート調布 407
Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878
発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
定価 200円
無断転載禁止